

平居歩雲陰おつ取突かる城兵押さる大をさ
し引退くかろ所に塙うちより大筒亦立けしを
吹とて一伏兵起り立接んで散る射けり上杉
鎧候より軍法まで最中最近二年別年と云ふ有て大
やうの時不意に進てもとをくさくさく敵に當つて惑を伏
兵に却ておわりし伏兵た一丈もせき城の中より引
入る上杉勢退き打立る所よりかろうちにて二十餘をり
うとたけり江に百餘をありし大舟の門前へ池出春日日
吉馬の勢大波合東北へ押さるし東へ追まくり火花
を散る敵しる敵も味方しける者数多き然る所に前後

城中より 忍び出敵の勢をぬきと取置る事と卒尔ある者
阿し塙の間に立る者多きをある是を見てまゝや城中へ入
入ると思ひあつてきて手原死人をを誅す宗越押入
んとするに五と番に當て討死と思ひ定しうあれ少もむ
なをかく十文字の旗を引提敵のま中に面もふれ突
入る同嫡子惣右衛門次男小吉同嫡の松田久作を始め
して家の子郎等我もくと切てきてあきを削りしはを
より東西南北入ちるを先と戦ひるさしもに
進むあきの勢も以勢ひたてしう一度はむりし引けり
手原も手原死人の伏しるさあけ 河原の石の如し能る